

# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

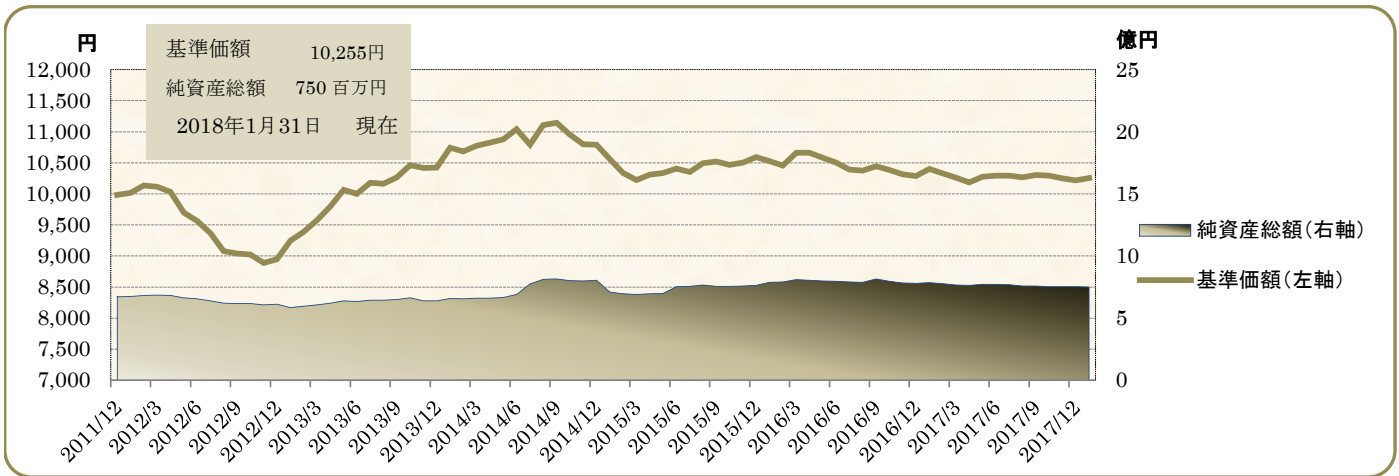
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2018年1月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

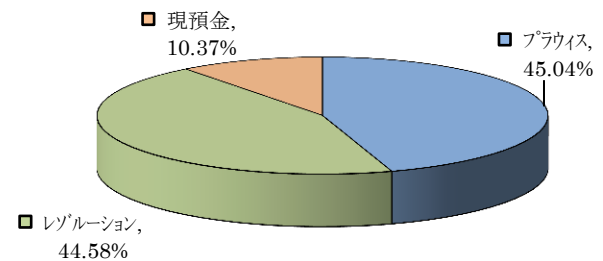
2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.35%												0.35%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%	-0.31%	-0.65%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2018年1月31日	
基準価額:	10,255円	対前月比 36円
純資産総額:	750百万円	対前月比 -1.2百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.37%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.37%
設定来	ファンド	2.55%
基準価額騰落率	TOPIX	153.84%
	日経平均	174.92%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2018年1月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライス	1.14%												1.14%
レゾリューション	0.25%												0.25%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%	0.13%	3.82%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%	-0.22%	1.36%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

1月の株式相場は、日経平均で1.46%上昇の23,098.29円、TOPIXで1.05%上昇の1,836.71ptとなりました。世界的な株高や企業業績の改善期待を背景に上昇しましたが、米長期金利の上昇から円高・ドル安が進むと下落基調に転じました。

上旬は、上昇しました。大発会としては26年ぶりの高値で取引が開始されました。米中の経済指標が改善して、世界同時株高となったことを背景に上昇しました。本格的な決算発表を前に、好業績を期待できる銘柄などに買いが入りました。

中旬は、米株高や円高一服を受け、好調な世界景気を背景に上昇するも、為替が円高方向に振れると外需株などを中心に売られ下落しました。好業績が期待できる銘柄や、割安株など材料のある銘柄が物色されました。

下旬は、下落しました。米株高や日銀が金融政策の現状維持を決めたことなどを好感し上昇しましたが、日銀が金融緩和の縮小に動くとの観測や、欧米債利回りの上昇、米株安を背景に円高・ドル安が進行し、幅広い銘柄が売られました。日経平均は月末にかけて6日続落しました。

セクター別騰落率では、不動産、証券・商品先物取引、その他製品、機械、その他金融が上位となり、空運、建設、水産・農林、鉄鋼、倉庫・運輸関連が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.94兆円と、活況の目安となる2兆円を15ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが7.2%の上昇、東証マザーズ指数は6.6%の上昇となり、TOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、米国長期金利の上昇基調が続く中で銀行セクターの銘柄が買われ、バリュエーターのパフォーマンスがプラスとなる局面もありましたが、日銀の政策変更への期待が徐々に後退したことが背景となり、同セクターの失速と共にマイナスに転じました。一方グロース銘柄については、12月中旬以降から引き続き、好調なファンダメンタルズ等を背景に大幅にアウトパフォームしています。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【プライウス】

#### ＜ファンド運用状況＞

1月の運用成績はJPYクラスで+1.14%となりました。割高な内需銘柄のショートポジションが指数対比で大幅にアンダーパフォームしたことや、需給要因による歪みが大きくなっていたREIT市場において、割安・割高の修正があったことなどがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、情報通信、REIT、建設、電機、商社セクターでプラスとなり、証券、医薬品セクターでマイナスとなりました。

#### ＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

2月の株式市場は 米国の長期金利上昇により世界的にリスクオフ姿勢が強まっていることから、当面は値動きの荒い相場展開を想定します。しかし、堅調な企業業績と日本株の相対的な割安感から押し目買い意欲も強いと思われ、徐々に下値を切り上げると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

### 【レゾリューション】

#### ＜ファンド運用状況＞

1月の株式市場は、ローリスク銘柄が優位、利益モメンタムや株価モメンタム銘柄が劣位となりました。一方、一部小型株の高バリュエーション銘柄は、依然として高止まりしている状況にあります。

ポートフォリオは、引き続き電気、情報、サービスのセクターをオーバーウェイトとし、全体として内需グロースベットのポジションにあります。ディフェンシブ銘柄については、食品や小売のアンダーウェイトを縮小させ、バイオを含めた医薬品をオーバーウェイトとしました。

ファンドパフォーマンスは、高バリュエーション銘柄のショートが一部足を引っ張りましたが、車載関連の電装化に伴う業績好調銘柄や、内需の成長銘柄のロングによる寄与があり、全体としてややプラスのパフォーマンスとなりました。

#### ＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

基本的には業績で大きなバリュエーションを付ける相場に変化はなく、個人主体の高バリュエーションな小型株の勢いもある程度維持されると考えます。

グローバル経済の好調さを前提にしながらも、株式市場において、シクリカル銘柄への楽観的なスタンスは見られていないため、個別業績に着目した銘柄選別を行います。

2月は、引き続き内需グロース銘柄を中心としながら、四半期決算発表の内容を吟味し、来期を睨んだ銘柄入替を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。  
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**